

2018年08月21日(火)【外為Lab】松田哲

タイトル:【トランプ大統領の発言に反応】

昨日の週明け月曜日(8月20日)に、トランプ米国大統領が、ロイターとのインタビューで、米連邦準備理事会(FRB)が利上げを継続する方針であることについて、「気に入らない」との見方を伝えた。

また、トランプ大統領は、FRBはもっと緩和的であるべきとの見方を示した。

そして、トランプ大統領は、「中国は間違いなく為替操作をしている。操作されていると考える」と述べた。

トランプ大統領の利上げに批判的なコメントに反応して、マーケットは、「米ドル売り」に動いています。

ドル/円は、下値のチャート・ポイントであった110.00を割り込み、109円台後半の安値を付けています。

ユーロ/ドルは、上値のチャート・ポイントであった1.1500を上を抜けて、1.15台ミドルの高値を付けています。

+++++

ただし、「トランプ大統領が利上げを批判しても、FRBは9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)の会合で、0.25%の追加利上げを決定する」といった見方が主流であることに、今のところ、変化はありません。

+++++

そして、トランプ大統領の米国の利上げに対する批判で、今週の8月24日に行われるパウエルFRB議長の講演に対する関心が、高まっています。

先週までは、多くの市場参加者の意識では、パウエル FRB 議長の講演に無関心が多かったのですが、パウエル FRB 議長が、「トランプ大統領の利上げ批判」に対して、どのような見解を表明するのか、注目すべき状況に変化しました。

+++++

中国の人民元相場については、米中貿易協議で議論される可能性がある、といった見解が広まっています。

つまり、

「ドル高・人民元安の流れが、米中貿易協議の前後で変わる可能性がある」といった思惑が出てきている状況です。

中国の人民元相場に関しては、トランプ大統領の指摘通りに、「中国は為替操作をしている」と推測できます。

中国政府が、容認しなければ、このところの急激な人民元安相場は実現しないだろう、と考えるからです。

米中貿易協議で、人民元相場が議題（テーマ）になるのならば、それは、実質的には「人民元安に対する批判・批難」であり、米国が、中国に対して、「人民元高」にするように求めることになる、と考えます。

+++++

このところの急激な人民元安相場の影響から、ドル／円でも、「ドル買い円売り」の思惑が広がっていた、と考えます。

つまり、ドル／人民元相場で、「ドル買い人民元売り」が強かったことで、ドル／円でも、いずれドル高に追随するだろう、といった思惑があった、と考えます。

昨日（8月20日）のトランプ大統領の発言は、上述の思惑を否定する内容であり、それで、マーケットは「ドル売り円買い」に反応した、と考えます。

+++++

（2018年08月21日東京時間15:00記述）